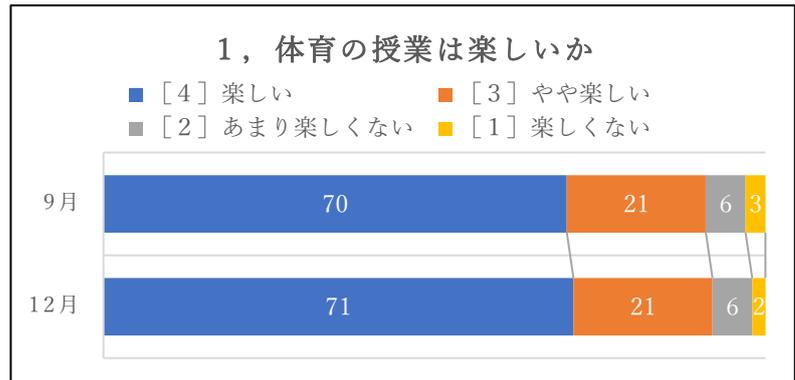


6 研究の成果と課題

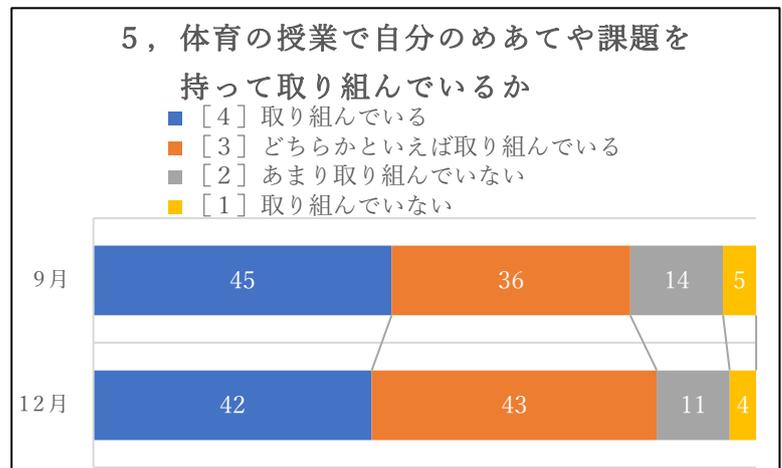
(1) 児童の実態から（アンケート結果の比較）

○アンケート項目【1, 体育の授業は楽しいか】について、[4]と答える児童が全体で70%から71%と1ポイント増えていたものの大きな変化は見られなかった。



しかし【7, 運動が好きな理由】を比較してみると「体育の授業でうまくいくから」が大きく伸びていることが分かった。これは、本研究で取り組んできた様々な実践の中で、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わうことができた結果、体育の授業が楽しいと感じられたからだと考える。

○アンケート項目【5, 体育の授業で自分のめあてや課題を持って取り組んでいるか】について、[4][3]を含めて比較すると、9月が81%だったのに対し、12月は85%と4ポイント上昇していた。特に



高学年での上昇が顕著に表れており、9月の結果を受けて、誰一人取り残さないための手立ての工夫、めあてや課題を明確にした授業づくり、課題を見付けその解決に向けた学習過程の工夫など、授業改善の取組が結果につながったと考えられる。

○アンケート項目【13, 何かを最後までやり遂げて、うれしかったことはあるか】については[4]または[3]と回答した割合が86%から88%へと2ポイント上昇、【14, 難しかったことでも、失敗をおそれないで挑戦しているか】については[4]または[3]と回答した割合が80%から84%へと4ポイント上昇しており、体育研究の取組が児童の主体性や粘り強く取り組む力へとつながっていると考えられる。

●アンケート項目の中で減少傾向にあったものは【10, 運動やスポーツは得意か】で、[4]の回答は42%から39%と3ポイントの減少であった。また【1, 体育の授業は楽しいか】について、全体的には上昇しているものの、高学年においては減少傾向が見られた。12月の持久走大会が影響している可能性も考えられるが、原因を考察し、今後の研究に生かす取組が必要である。

(2) 仮説から

ア 仮説1について

(ア) 視点①～見方・考え方を働かせる学習過程～

- 中央小の実態に応じた体育の年間カリキュラムや単元指導計画を作成し授業実践を行っていくことで、各学年の系統や単元のゴールの姿を意識した授業づくりにつながった。
- 休校やそれに伴う行事日程の変更等で単元計画通りに授業実践ができないこともあった。計画の内容が児童の実態に合ったものなのか、内容の見直しを行っていく必要がある。

(イ) 視点②～見方・考え方を働かせる学習活動～

- 課題解決型の学習の流れを意識し、場作りや学び合いの工夫、学習カードの工夫をしていくことで、運動やスポーツに対して「する」だけでなく「みる」「支える」「知る」といった様々な関わり方を考えることができた。
- 運動やスポーツへの多様な関わりが、様々な実態の児童にとって、楽しさや喜びにつながるよう価値付ける手立てを考える必要がある。

イ 仮説2について

(ア) 視点③～児童の運動や健康に関する実態の把握～

- 中央小健康体育アンケートを作成・実施することで、児童の実態を把握し、研究内容に役立てることができた。
- 様々な項目のアンケートを実施したが、その結果を周知することが不十分であった。職員や児童にも結果を開示し、それぞれが課題意識を持って取り組むことで、より内容を焦点化した実践ができると考えられる。

(イ) 視点④～環境整備と日常活動～

- 各学年の体育掲示板（3回更新）等で体育や保健の活動を紹介したり、体育委員会が主体となった企画を実施したりすることでたくさんの児童が運動に親しんでいる姿が見られた。
- 備品や環境面の整備を行っているが、まだまだ不十分なところはたくさんある。限られた環境の中で、何をどう活用していくか工夫していく必要がある。

7 おわりに

熊本県教育委員会より2年間の「学校体育研究推進校」の指定を受け、今年度から体育の研究をスタートすることとなった。初年度ということで、授業づくりを中心としながら理論の構築と実践を進めてきた。少しずつではあるが、研究の成果が児童の変容へと表れてきている。来年度11月には、研究発表会も予定されている。今年度の成果と課題を洗い出し、「体育の楽しさや喜びを味わい、運動に親しむ児童の育成」を目指して、全職員一丸となって体育科教育を進めていきたい。